

劇団 SUPER TAICHIMON

ver. 4

「すどれーとびー」

作・演出 ナカオタイチ

【配役表】

コイズミ	(3 1)	下前祐貴
ヒナタ	(1 8)	富永実里 (A) / せな (B)
ヨウコ	(2 6)	森岡里世
ナツ	(2 3)	戸倉志歩 (A) / 楠野菜那 (B)
アツシ	(5 1)	齋賀正和
キビツ	(2 6)	長瀬大祐
モモヤマ	(2 6)	松本弥恵 (A) / 加藤優菜 (B)
エンマ	(4 0)	中瀬古健
タカムラ	(3 3)	桜庭真以
シニガミ	(?)	中尾太一

#0

劇団×× 旗揚げ公演のカーテンコール。
客席より感極まった表情のコイズミが登壇する

コイズミ 本日はご来場いただき誠にありがとうございました。僕一人の力では決してこの舞台を作り上げることはできませんでした。スタッフさん、そして劇団員のみんながいてくれたからこの舞台をこうして皆さんにお届けできたんだと心より実感しております。本当にありがとうございます。もっともっと良い作品、いい舞台をお届けできるようこれからも精進してまいります。劇団××主宰・コイズミコウイチでした。改めまして、本日は劇団××旗揚げ公演にお越しいただき誠に、ありがとうございました！

アナウンス Welcome to our show. We were looking forward to this moment. Thank you for being here, We will show you the place where true and lie become one. Memorize this time we will spend together and keep us in your hearts. We would like to introduce the members. (出演者の紹介)
Let's get start it, SUPER TAICHIMON ver.4 STRAIGHT GO……

暗転

#1

舞台中央の椅子に座っているヒナタ。上手と下手にはそれぞれ机一台と椅子が二脚。舞台中央でアツシがヒナタのほっぺを触ったりしながらあやしている。

アツシ ヒナター、ほーら、今日もいい天気だぞ。今日はどこに出かけようか？

ヒナタ

：

アツシ お母さんー準備できてる？…ごめん、ヨウコ、ちょっとお母さん呼んできて

ヒナタ、じっと座ったまま動かない

アツシ ん？ヒナタ？ヒナタ？おーい、ヒナタ？

アツシ、ヒナタと視線が合わないことに戸惑う

アツシ

母さん！なあ、ヒナタの様子がちょっとおかしいんだけど？あれ？おーい、こっち向いてーヒナタ。なあ、ちょっとこっち来て！ヒナタ！おーい、ヒナタ！

アツシ、下手の椅子に移動する。病院の診察室。医師と向かい合いながら話を聞くアツシ

アツシ

…網膜芽細胞腫？…え？…えーと…目の癌？…両目共ですか？…摘出？…目を摘出しないといけないんですか？摘出しないとうなるんですか？…脳に転移の可能性？いや、…あの、何とか摘出しないで済む方法はないんですかねえ？抗がん剤治療とか？…先生…だって…まだこの子は二歳なんですよ…何とかなるでしょ？…そんな無責任なこと言わないでください。…この子を育てるのは俺たちなんですよ！…なんとかならないんですか？…なあ先生…！先生！

呆然としながら上手の机まで歩き（帰路）、椅子に座る。机の上に突っ伏しているアツシ。自宅リビングのテーブル。スポットが横の椅子に変わる。

アツシ

どうすればいいかな？今摘出すればほぼ確実に命は助かる。けど、目の見えないうちで…。なあ、どうすればいいんだろう？

アツシ、着ている上着を自分の頭にかける。何も見えない暗闇の世界。ヒ

ナタが一生その状態になることを想像し絶望するアツシ

アツシ

ううつ、ううつ…

ヒナタ立ち上がる。スポットがヒナタに当たる。

ヒナタ

私の家族を紹介します。私にはお父さんと二人のお姉ちゃんがあります。お父さんは美容師です。朝早くにお仕事に行って夜は遅くに帰ってきます。お父さんは料理が得意でお父さんの作るご飯はすごく美味しいんです。一番上のお姉ちゃんは女優さんです。舞台とか、テレビにも出ています。二番目のお姉ちゃんは広告の会社に勤めています。お姉ちゃんたちとは前はたまに喧嘩してたけど最近はありません。私も少し大人になったからかな。お母さんは私が三歳の時に亡くなりました。三歳の時の記憶はないから、私はお母さんの声や形を覚えていません。ずっと前にお父さんにお母さんってどんな人だったの？って聞いたことがありました。お父さんはち

よつと悲しい声で「嘘つきだったなあ」とだけ答えてくれました。だから私はそれ以来お父さんにはお母さんの事は聞かないようにしてます。

少しの沈黙

ヒナタ

なんだか：今日もいい天気だな

ヨウコとナツ、ヒナタの方に向かいヒナタを支えて上手へ歩き出す。アツシは変わらず机に顔を埋めている

暗転

#2

真つ白な世界。舞台正面には2台の梯子が横たわっており2枚の白い布がかけられている。タカムラは舞台上を行ったり来たりしながら下界を眺めている。落着きのない様子。エンマ少し焦った様子で入ってくる。

エンマ

すみません、寝坊しましたー！

少しびっくりした様子のタカムラ

タカムラ

あ、おはようございます

エンマ

：ん？なんか面白そうなことでもあった？

タカムラ

は？なんのことです？

資料を取りに行くタカムラ、エンマ下界を覗き込みフラフラしてる

エンマ

うーわ、あのカップル、まーた喧嘩してるよ

タカムラ

何ですか？

エンマ

うーん：なんか会話の流れからして彼女に黙って他の女の子とご飯に行ったのがバレたっぽいね

タカムラ

へー

エンマ

別にご飯くらいいいじゃんねえ

タカムラ

まあ、お付き合いにおいての浮気の定義は二人の価値観に基づいて決まりますからね、他の女性と二人でご飯に行く事を彼女が浮気って言ったらそれは浮気になるんです

エンマ　ちなみにその怒ってる彼女、二週間前に友達の家に泊まるって彼氏に嘘ついて別の男と二人で伊豆に旅行に行ってたよ

タカムラ　え？

エンマ　で、彼氏は多分幼馴染の子とご飯に行っただけでめっちゃ怒られてる

タカムラ　うわゝゝ彼氏、不憫…

エンマ　あの女の子が裁きにかかったらどんな試練になるのかね？

タカムラ　その場合だと…

エンマ　うわ！彼女泣き始めた！おい！別れようって言ってるぞ！来た、別れ話！パワフルな子だなー、あー彼氏泣いてる！別れたくないだって！別れる別れる別れちまえ！そんな女に執着すんな！一人の女に拘るなもつといい子いるぞ！あー他の男と伊豆にいったって伝えてあげたい！

タカムラ　ですね！…じゃなくて、ちょっとエンマさん！また下界の者の生活を勝手に覗き見してるんですか？裁きにかけられていない者の生活を天界から覗くのは禁止されていますよ！

エンマ　お前もちょっと興味ありそうだったじゃん

タカムラ　ダメなもんはダメです！

エンマ　分かったわかった

ため息をつくエンマ。少々の沈黙。ちよつと下界が気になる様子のエンマ。
また下を見ようとするとその首を強引に上に持ち上げるタカムラ

タカムラ　おい！

エンマ　はいはい

タカムラ　しかし、流石にここ最近は暇ですね。ほとんど案件回ってこないですもんね、やる気も無くなっています

エンマ　あら、らしくないねー。下界の法では裁けない過ちを裁き、悔い改めさせることのできる可能性の秘めた、こんなにもやりがいがあり人の為になる仕事どこを探してもないぞ

タカムラ　本当にそう思ってます？

エンマ　ん…

タカムラ　改心率は10%未満、猶予を与えたところで人の本質はそんなにすぐには変わらない。結局同じ過ちを繰り返し、散り散りになって土に帰ってハイ終わり。仮に猶予期間中に改心したと思っててもその時の痛みや苦しみなんかすぐに忘れてまた同じ過ちを犯す

エンマ　まあまあ、そんなこと言うなって

タカムラ　すみません、嘘のつけない性格なもんで

エンマ　知ってるけど

タカムラ 仕事って、結果に結びつかないとどんどんやる気無くなりますよね、それに
おいては天界も下界も一緒です。

エンマ まあなー。でもお前はもうすぐノルマ達成だろ？

タカムラ 達成までのハードルが高すぎます。もう15年目ですよ

エンマ 俺なんてもう28年だぞ。いくらなんでも罪が重すぎる…一体何人改心させ
ればいいんだよ

タカムラ けど、ま、今できる事を全力でやる、その先に結果はついてくる。そう信じ
て頑張ります

エンマ そうだねー

机の上の固定電話に着信が入る

タカムラ あ！

エンマ お、マジか！

タカムラ あ！私出ます！はい、タカムラでございます。はい、はいはい、え？？

案件内容をメモするタカムラ

エンマ ん？

タカムラ かしこまりました。承りました、ご連絡ありがとうございます

受話器を置くタカムラ、

タカムラ シニガミさんから案件きました

エンマ お！

タカムラ …明日、えー天界の時間で8時にご来店の予定です

エンマ えー、ちょっと8時は早いつて、うちが8時オープンってあいつ知ってんの
かな？

タカムラ だから8時にご案内してくれるんです

エンマ いや、8時オープンってのはさ、8時半オープンみたいなもんじゃん、こっ

ちだって色々と心の準備とかがあるんだから

タカムラ だったら7時半から心の準備をしておいてください

エンマ ったく、同業だったらそれくらい気を遣えよなあ

タカムラ さあ！では早速被告人の資料集めから始めましょう

エンマ へーい

エンマ、タカムラ奥の資料室へ向かう

溶暗

#3

都内、劇団スズの稽古場。ヨウコ、キビツ、モモヤマは次回公演の稽古に取り組んでいる。演出席に座っているコイズミ、その横に座っているモモヤマ。稽古場からは怒号が聞こえる。

コイズミ 馬鹿野郎！下手くそ！何をやってるのか全然分かんねーんだよ、今お前どういう感情でその台詞言ったんだよ！

必死に理由を考えるキビツ

キビツ どういうって…、悲しいなって気持ちでやりました

丸めた台本でキビツの頭を叩くコイズミ

コイズミ だから、なんで悲しいって思ったんだ？

キビツ それは…

コイズミ 全く役を掴めてねーんだよ、掘り下げてねーんだよ、なにがどうしてどうなっと思ってたから悲しいんだ？あ？感情を繋げていって台詞に出すのが役者じゃねーのかよバカ！想像が足りてねーんだよ！お前そこに座ってろ。ってかお前、家で台本ちゃんと読んでる？

キビツ はい、読んでます

コイズミ お前、家で台本読んでてこれなの？おい！

ノートを破るコイズミ。破った紙にバカと書き、モモヤマに渡す

コイズミ おい、これをこいつの背中に貼ってやれ

キビツの背中に紙を貼るモモヤマ

コイズミ 似合ってるじゃん。今日こいつのことバカって呼べよ。おい、モモヤマ
モモヤマ はい

コイズミ このシーンの頭の台詞から言ってみろ

モモヤマ え

コイズミ 早くやれよ！

モモヤマ、台本を持ちながらゆっくりと立ち上がり

コイズミ 台本を見るな！

台本から目を離し恐る恐る

モモヤマ でも、ナプキンは畳めるようになったわ。それにあの先生が来てから・・・
コイズミ その前のセリフは？

モモヤマ え？その前はキビツくんの台詞で

コイズミ キビツって誰だよ

モモヤマ ……

コイズミ キビツって誰だよ？

モモヤマ ……バカです

コイズミ だから、バカの台詞は？

モモヤマ 彼女はお荷物以外何者でもない無能で…えーっと・・・
ヨウコ （モモヤマだけに聞こえるように）不作法で、何も教えず

コイズミ 無能はてめーだろ！バカ！他の役の台詞も全部覚えてこいって言ったよな？

この台本渡したのいつだ？三日前には渡したよな？三日間テメーは何やってたんだ？

モモヤマ ……

コイズミ お前やる気あんの？

モモヤマ あります！

コイズミ じゃあなんで覚えてこなかったんだよ

モモヤマ それは…

コイズミ お前今のままで売れるって思ってたんの？

モモヤマ ……

コイズミ お前さ、自分の顔見たことある？

モモヤマ え？

コイズミ どう思う？

モモヤマ どう思うって…

コイズミ この業界は顔がよっぽどよけりやそこそこ芝居ができるだけで売れるんだよ
で、お前はどうかんだ？よっぽどの美人か？よっぽどスタイルがいいのか？よっぽどいい芝居できんのか？

モモヤマ ……

コイズミ どうなんだよ？

モモヤマ 違います

コイズミ だったら他のやつの何百倍も努力しなきゃダメだろうがバカ！

少し涙目になっているモモヤマ、じーっとコイズミの方を見つめているヨウコ、俯いているキビツ

コイズミ お前らもだぞ、結局就職活動なんかでもそうだろう？大体の人間見た目がいい

と得するんだ。で、お前らはどうなんだ？違うよな？

黙り込む一同

コイズミ 違うよな？

キビツ …はい

ヨウコ でも、それが全てではないと…

キビツ ヨウコちゃん

コイズミ、ヨウコの方を睨み

コイズミ まあ、例えばだ、綺麗で若い男とボロボロの汚ねえジジイ、二人から同時に

助けを求められたらお前はどっちを助ける？

ヨウコ …それは、今芝居の話と関係ないと思います・・・

苛立った様子でヨウコの方に歩み寄るコイズミ

コイズミ 答えてみろって

ヨウコ …

コイズミ 答えてみろ！

ヨウコ …状況によります

コイズミ 答えられないだけだろ？

ヨウコ …

コイズミ、キビツの方に目をやり

コイズミ お前は？

キビツ、少し迷いながらも

キビツ うーん、綺麗な方かもしれません：

ため息をつき、ヨウコの頭を台本で叩くコイズミ

コイズミ そういう事なんだよ。だからお前らは周りの奴らの何倍も努力しなきゃ売れねー！いい芝居も作れねーよ。断言してやる。今のままじゃ絶対無理だから

キビツ 頑張ります

コイズミ、机の上を片付け始める

コイズミ 今日はもう終わりでいいや、モモヤマは、はい？

コイズミ 明日までに全員のセリフ入れてこいよ

モモヤマ は、はい！

コイズミ お前らもな

キビツ はい！

コイズミ 公演まであと一ヶ月切ってたんだ。寝てる暇なんてないぞ、死ぬ気でやれや、どうせ死なねえんだから

稽古場から去ろうとするコイズミ

コイズミ あ、モモヤマお前このあと面談なモモヤマ え？

コイズミ 掃除終わったらLINE送って

稽古場から出ていくコイズミ

3人 お疲れ様でした！

コイズミが稽古場から出るのを見送り掃除を始める3人

ヨウコ ふー、お疲れさま

モモヤマ :

キビツ なんなんだよ、あいつ

モモヤマ ごめんね、私がちゃんと台詞覚えてこなかったから二人とも巻き込みやって

キビツ　まあ、しょうがないよ。俺だって全部覚えてないもん。正直当てられるんじゃないかって冷や冷やしてたし

ヨウコ　え？キビちゃんも覚えてこなかったの？

キビツ　だって、他の役の台詞も覚える時間なんてないよ。今日だって夜勤明けでほぼ寝ずに稽古来てるのに

ヨウコ　：

キビツ　ってか、前にも増してコイズミさんのパワハラひどくない？

ヨウコ　うーん：

キビツ　ここ一年で結局3人も辞めちゃったもんな、ムトウさんなんて「また明日もよろしくね！」って言ったつきり音信不通だよ

ヨウコ　辞めてった人の話はやめよう

キビツ　コイズミさんのもとで3年以上続いた人いたっけ？まああんな人間性だったらしやうがないか

ヨウコ　けどいい舞台作ってたよ、商業の映画にも関わってたし、演劇祭も獲った実績ある：

キビツ　それも数年前の話じゃん、ここ最近は映画の話も聞かないし賞にもひっかからず年に一、二回の小劇場公演のみ。今回なんて50人入るか入らないかの劇場だぜ、学芸会かよ

ヨウコ　：だから私たちがあの人の演出の元で頑張って、いい芝居に仕上げて、沢山のお客さんが喜ぶ舞台を作るしかないんじゃない？それにどこにチャンスが転がってるのかはわからないしさ
キビツ　はあ：頑張るしかないかあ、耐えられるかな
ヨウコ　今は耐えるしかないでしょ、修行、修行！

俯いていたモモヤマが何か決心をしたように

モモヤマ　ねえ

キビツ　ん？

モモヤマ　私、次の公演終わったら私、劇団辞めようと思う

ヨウコ　え？

キビツ　え？え？それ本気で言ってるの？

モモヤマ　うん

キビツ　いや、え？聞いてないよ！あ、えーっと、まあ、たしかにコイズミさんの演出は厳しいけど

モモヤマ　いや、厳しいとかじゃないって、あんなのただのパワハラだよ。それに：けどほら、やっとうとして舞台に立ててるんだし

モモヤマ　立ててるって3人しか劇団員いないんだからそりゃ立てるよ

キビツ

いや…モモちゃんの気持ちは分かるよ、けどほらここに入った時にさ、約束したじゃん、ほら、あそこで、なあ？ほらあの駅前の居酒屋でさ！俺たち三人がこの劇団の看板になって劇団〆〆を盛り上げようって！絶対売れようって！

モモヤマ

けどもうついていけないよ…お芝居することは好きだよ、けどこのままここにいたら芝居自体嫌いになっちゃいそうだし、コイズミさんのやり方は絶対間違ってる

キビツ

うん、うん、その、だから気持ちは分かるけど

ヨウコ

なんで今日セリフ覚えてこなかったの？

キビツ

え？おい

ヨウコ

覚えてこいって言われたよね？それはコイズミさんにああ言われても仕方ないんじゃないかな

キビツ

え？おい、どうしたー？

モモヤマ

…それはそうだけど、私だってバイト忙しいしそれに…

ヨウコ

私だって！

何か言おうとしたが言葉を飲み込むヨウコ

モモヤマ

なに？

ヨウコ

いや、たしかに稽古中のコイズミさんの暴言、人は見た目がどうだとか言うような差別的なところは大嫌いだし、人間としても好きにはなれない。けど、あれだって一つの演出なのかもしれないし、精神的に追い込んで私たちの中から湧いて出る何かに期待しているのかもしれないよ。そんなの演出なんていえないと思う、そもそも演出家だからって何やってもいいわけじゃないと思う

モモヤマ

ヨウコ

思う思うって、モモちゃんさつきから意見がハッキリしてないじゃん

キビツ

ちよつと、ヨウコどうしたんだよ

ヨウコ

私たちは売れなきゃいけないんだって！

キビツ

え？

ヨウコ

…コイズミさんがああいう演出する事は知ってたでしょ？ね？…少し頑張ってみようよ

モモヤマ

もう限界だから言ってるの！

キビツ

ちよつと

沈黙する一同

ヨウコ

ごめん、ちよつとだけ本読みしない？…あ、その前にお手洗い行ってくる

ね

稽古場から出て行くヨウコ

キビツ

どうした？なんか珍しくピリピリしてたねー…、え？で、本当に辞めんの？聞いてないよ！

ため息をつくモモヤマ

#4

田中家の自宅リビング。明かりはついていない。テーブル、それを囲んで椅子三つ置いてある。下手には椅子が二脚並んでいる。ヒナタ椅子に腰掛け音楽を鼻歌まじりに聴いている。玄関の開く音。ナツが下手から入ってくる。ナツが壁のスイッチを押すと明かりがつく。

ナツ

ただいま

ヒナタ

おかえり

voice over 機能で携帯から機械的な声で「一時停止ボタン」「一時停止」となる。音楽が消える。母の仏壇に向かい手を合わせるナツ

ナツ

音楽聴いてていいのに、あれ、明日学校じゃないの？

ヒナタ

うん、学校だよ

ナツ

じゃあもう寝た方がいいんじゃない？

ヒナタ

うん、もうちょっとしたら寝ようかな

ナツ

お父さんまだ帰ってきてないんだ

ヒナタ

もうすぐ帰るってさっき連絡あったよ

ナツ

そっか

ヒナタ

あ、さっき、なっちゃんが作ったお酒のCMまたテレビで流れてたよ

ナツ

いや、ちょっと関わっただけで私が作ったわけじゃないから

ヒナタ

関わってたら一緒だよ

ナツ

：

ヒナタ

あ、ねえ、今度の姉ちゃんの舞台いついく？一緒に行かない？

ナツ

：ちよっと仕事で忙しいから無理かもなー

ヒナタ

どんな内容か聞いたんだけど、なんか面白そうだったよ

ナツ

へえー

ヒナタ

だからさ、予定空けられそうだったら一緒に行こう、あ、私とじゃなくても

ナツ
いいからさ、どこかで
そうだね

玄関の開く音

ヒナタ
あ
アツシ
ただいま
ヒナタ
おかえり
アツシ
遅くなりましたー、飯食ってないよな？

仏壇に手を合わせるアツシ

ヒナタ
私もう食べたから大丈夫だよ
アツシ
ナツはまだまだろ？
ナツ
うん、ただけどあんまりお腹空いてないから大丈夫
アツシ
若いうちはちゃんと飯食べないとだめだぞ
ナツ
もう23だけど
アツシ
十分若いだろ
ナツ
いいの、あ、私作るからお父さん先にお風呂入ってきなよ。お疲れなんだから
アツシ
何言ってるんだよ、お前だって疲れてるだろうに
ナツ
いいから、行ってきたよ

面倒くさがりながらもアツシを浴室に連れていこうとするナツ

ナツ
え？ねえ、この手どうしたの？
アツシ
あ？どうしたって、ずっとこうだぞ。ほら朝から晩までシャンプーとかしてるとこうなるんだよ。美容師はみんなこうだぞ
ナツ
：そんな手の美容師見たことないけど
アツシ
俺の周りには沢山いるぞ

苛立ちを感じた表情のナツ

ナツ
ねえ、ちょっとお父さん働きすぎじゃない？
アツシ
なんだ？心配してくれてんのか？
ナツ
：
アツシ
ありがとう！あ、けど俺だってまだまだ若いんだからな、働き盛りなんだよ

ナツ その働き盛りを何十年もやってるじゃん
アツシ お！

ナツ もう少し休みもらってもいいんじゃない？私だってやっと働きはじめたんだし…

ヒナタ 私そろそろ寝るね

椅子から立ち上がるヒナタ

アツシ おう、明日は何時に家出るんだ？送ろうか？

ヒナタ もう一人で行けるから大丈夫だよ、それにお父さんお仕事でしょ

アツシ 本当にもう大丈夫か？

ヒナタ うん。あ、お父さんもなっちゃんもお疲れなんだから早くお風呂入ってきたら…おやすみー

アツシ おやすみ

寝室に向かうヒナタ

ナツ …お姉ちゃんは？

アツシ 今日も稽古なんじゃないか？

ナツ …ねえ、お姉ちゃんってうちにいくら入れてるの？

アツシ ん？なんで？

ナツ …いや

アツシ ほーら、早く風呂入ってこいって！あ、お前、お父さんが入った風呂の後に入りたいからそんなに先に入れて言うのか

ナツ そんな娘いないでしょ

アツシ え？

ナツ いいから、早く行ってきた

アツシ はいはい

浴室に向かうアツシ

机に座り一息つくナツ。立ち上がりご飯の用意をしようとするナツ。玄関の扉が開く音。ヨウコが帰ってくる。

ヨウコ ただいま

ナツ …

仏壇に手を合わせるヨウコ

ヨウコ ヒナタはもう寝たの

ナツ 当たり前でしょ、こんな時間なんだから

ヨウコ そうだね

ヨウコがナツの横を通り過ぎる

ナツ ねえ、お酒飲んできたの？

ヨウコ うん、ちょっとだけだよ。稽古のあと居酒屋のお仕事だったからさ、すごい

気を遣ってくれるお客さんでいつも一、二杯ご馳走してくれるんだ

ナツ 仕事？居酒屋のバイトでしょ？

ヨウコ ；お風呂入ってくるね

ナツ お父さん入ってるから

；

ナツ いつまでこんなことしてるの？お姉ちゃんもう26でしょ？いい大人がさ、

いつまで夢追って女優気取ってんの？

ヨウコ 気取ってなんかないよ、ちゃんと舞台にも立ってるし、テレビの案件もあるし、それでお金ももらって；

ナツ テレビの案件って一秒か一秒映るか映らないかのエキストラでしょ

でもどこで誰が観てて何がキツカケになるかなんてわからないし；

ナツ お父さんの手見た？

え？

ナツ お母さんが亡くなってから朝から晩までずっと働いて、ヒナタを学校に通

わせて、病院に通わせて。で、長女は好きなことやっています。お姉ちゃんい

くら家にお金入れているの？家のために何かしてくれてるの？

ヨウコ ごめん、分かってるよ、迷惑かけてると思うてる。けど、もう少し頑張りたいの。30歳までには絶対なんとかなるように；

ヒナタ、リビングにやってくる

ヒナタ あ、お姉ちゃん、おかえり

ナツ ；

ヨウコ うん、ただいま

ヒナタ 喉乾いちゃってさ

ヨウコ あ、水持ってくるよ。水でいい？

ナツ いいよ、私がいくから

ヒナタ え？ありがとう

キッチンへ向かうナツ

ヨウコ ……どうしたらいいんだろう

ヒナタ え？何が？

ヨウコ あ、ううん

ヒナタ ……お姉ちゃん、最近お仕事忙しそうだね

ヨウコ え？…うん、舞台公演も控えてるしね

ヒナタ そうだね、どんな役なんだろう。楽しみだな

ヨウコ ……

ナツ、二つ水を持ってきて一つをヒナタに渡す

ヒナタ あ、なっちゃん、ありがとう

ナツ うん

ヒナタ水を飲むとするが少し考えて飲まずにテーブルに置く。ナツ、椅子に座り水を飲む

ヒナタ あ、次の舞台さタイミング合えば一緒に観に行こうってさっきなっちゃんと

話してたんだよ

ヨウコ え？

ナツ いや

ヒナタ お姉ちゃんすごいよね、あんなに沢山のセリフ覚えてさ、沢山の人の前で演技して感動させてさ

…

ヒナタ この前さ、お父さんとテレビ見てたらお姉ちゃんが出てたドラマになっちゃんを作ったお酒のCMが流れてさ、お父さん奇声あげて喜んでたよ

ナツ ……

ヨウコ いや出てるっていうか…

ヒナタ すごいよ、自慢のお姉ちゃんたちだよ。何より、二人とも優しいしね

ヨウコ ……ヒナタ、ごめんね。私もっと頑張るから

ナツ ……

ヒナタ 何言ってるの？十分頑張ってるでしょ？

ヨウコ ううん、もっともっとだよ

立ち上がり寝室に向かおうとするヒナタ。支えようとするヨウコ

ヒナタ　ありがとう、大丈夫だよ。私の方がもっと頑張っちゃうから。あ、お水、お姉ちゃん飲んで。

ナツ

：

ヒナタ

おやすみ

ヒナタ、リビングから寝室へ。複雑な表情の二人。（浴室から出てくるアツシ）

アツシ

ナツ、上がったよ、お待たせー。おー、ヨウコおかえり。うわ、珍しいな3人揃うなんて。3人で一緒に一杯飲むか？

ナツ

：お風呂入ってくる

浴室へ向かうナツ。心配そうな表情でヨウコを見るアツシ

溶暗

#5

劇団××の稽古場。稽古場の掃除をしているモモヤマ。台本を持ちながらぶつぶつとセリフの確認をしているキビツ。

モモヤマ

ヨウコちゃん遅いね

キビツ

さっき連絡あって5分前くらいに稽古場着くってさ

モモヤマ

いつも一番早いのになに珍しいね

キビツ

また妹の面倒でもみてんじやない？

モモヤマ

あれ、ヨウコちゃんの妹って：

キビツ

うん、目が見えないんだってね

モモヤマ

だよ

キビツ

どんな感じなんだろうな、目が見えないって

キビツ、目を瞑って歩いてみる

キビツ

あ、意外といけるもんだな

しばらく歩くと稽古場に置いてある椅子にぶつかる

キビツ　いてっ！ねえ、椅子があるって言ってよ！

モモヤマ　なんかすぐ嫌な気持ちになった

キビツ　え？…あ、ちなみにそれで言うって俺まだ怒ってるからね

モモヤマ　え？何に？

キビツ　俺に黙って劇団辞めようとしたこと

モモヤマ　だって、キビちゃんに言ったら絶対引き止められるって思ったから

キビツ　俺たちソウルメイトだろ？隠し事はなして約束したじゃん

モモヤマ　なに？ソウルメイトって。それで言うって私だってまだ怒ってるからね

キビツ　え？何に？

モモヤマ　私に黙って他の女の子とご飯行ったこと

キビツ　いや、だからあれは幼馴染とただご飯に行っただけで本当にやましい事なんてないんだって

モモヤマ　じゃあなんでご飯行ってくて言ってくれなかったの？

キビツ　だって、言ったらモモちゃん嫌な気持ちになるかなと思って

モモヤマ　嫌な気持ちになるって分かってるじゃん！

キビツ　いや、だから気遣いというかなんというか

モモヤマ　じゃあ、私もキビちゃんの知らない男の人と一緒にご飯行ってくるね

キビツ　まあ、言ってくれたら別にいいけど

モモヤマ　いいの？いいわけないでしょ？何があるかわからないんだよ？なんで嫌だっ
て言わないの？

キビツ　ごめん、いやだ、嫌だよ。でもモモちゃんが行きたいんだったらその気持ち
を優先してあげたいなって話で

モモヤマ　別に行きたくなんかないよ！そう言うことを言いたいんじゃないって

キビツ　分かった、行かないで、本当に心から行かないでほしい

モモヤマ　全然わからない！

キビツ　あー、だからごめんって

モモヤマに寄り添おうとするキビツ。少し息を切らしたヨウコが稽古場に来る

ヨウコ　ごめんね遅くなって

キビツ　あー！どうしたの急に？

ヨウコ　急に？

キビツ　いや、ちょっとびっくりしただけ

ヨウコ　う、うん。ごめんね遅くなって

カバンを床に置き、発声やストレッチなど稽古に向けての準備をするヨウコ。

少し気まずそうなモモヤマ

ヨウコ あれ？コイズミさんまだ来てないの？

キビツ まだ10分前だし、流石にまだ来ないでしょ

ヨウコ …モモちゃん

モモヤマ …

ヨウコ 昨日はごめん。モモちゃんの事情も色々あったのにさ、一方的にあんなこと
言っちゃって

モモヤマ …いや

ヨウコ どうしても今回の舞台を成功させたいって思いが強く出ちゃって…本当にご
めん

モモヤマ …私の方こそごめん

笑顔になるヨウコ

キビツ あー、よかった。はい、仲直り。(握手を催促しながら) めでたしめでたし
ヨウコ 今日シーン4からって言ってたよね？ちよつと動きの確認しない？

キビツ オッケー、あれ？俺が上手で板付きだっけ？

ヨウコ いや、キビちゃんが下手で私が上手かな

キビツ そうか

ヨウコ うん

キビツ あ、で、音のキツカケで俺が上手に動くのか

ヨウコ いや、まだそのままだね

キビツ だよ

ヨウコ うん、で、しばらく二人のやりとりがあって、モモちゃんが下手から入って
きたら

キビツ あ、俺が上手に動くのか

ヨウコ そうだね

立ち位置の確認をしながらもモモヤマを気にかけてる様子のヨウコ

ヨウコ …今回の舞台さ、すごく面白いじゃん。やっとコイズミさんの真骨頂って感
じだし、来てくれるお客さんにも絶対いいものが届けられるよ

キビツ 確かに！

ヨウコ 稽古は本当に大変だけど、私さ、この劇団でコイズミさんを信じて頑張って
きてよかったなって思える本だったんだ

キビツ わかる！

ヨウコ　だよね？

モモヤマ　昨日さ！

ヨウコ　え？うん

モモヤマ　：

ヨウコ　昨日？

モモヤマ　ごめん：今言うことじゃないかもしれないけど、昨日、稽古のあとコイズミ

さんに飲み誘われて

キビツ　え？二人きりで？

ヨウコ　：うん

モモヤマ　：最初は普通に今回の舞台や、お芝居についての話を聞いてたんだけど、ちよっとお酒が入ってきたらコイズミさんの距離がどんどん近くなってきて、なんかちよっと怖くなっちゃったんだよね

キビツ　え？

ヨウコ　：何かされたってわけではないよね？

モモヤマ　うん。でも、昨日が初めてじゃないんだ。お酒の席で距離が近いなって思ったの

ヨウコ　：

モモヤマ　お芝居は好き、それは本当。だけどコイズミさんに飲み誘われたら断れないし。飲みに行ったら行っただでボロボロに言われるしで：なんかそういうのも重なってお芝居に対する気持ちも無くなってきて劇団を辞めたいって思っちゃったんだよね

ヨウコ　：ごめん、全然気づいてあげられなくて

キビツ　あ、えーと：

コイズミ　稽古場に入ってくる

コイズミ　揃ってるかー？

「おはようございます」という3人。演出席に座るコイズミ。気だるそうな様子

コイズミ　10分後にシーン4から始めるぞ

少し気まずそうなキビツとモモヤマ。苛立ちと悲しみを隠そうとしてるヨウコ。演出席で机に突っ伏してるコイズミ

コイズミ　いてて、完全に二日酔いだわ。気分悪い、お前らでストレス発散するか。

おい、モモヤマちょっと肩揉んでくれない？

剣幕な様子でコイズミに近づくヨウコ

ヨウコ コイズミさん！

コイズミ あ？

ヨウコ 私、コイズミさんの舞台を初めて観た見た時、すごく感動したんです。舞台ってこんなに素敵なんだ、こんなに人の心を動かすんだって。私だけじゃないです、キビツくんだってモモヤマさんだってそう思ったはずです、そう思ったからこの劇団に入ったはずですよ？

コイズミ で？

ヨウコ こんなに人の心を動かす作品を作る人ってどんな人なんだろう、きっとすごく素敵な人なんだろうなって、この人に着いて行ったら私も人の心を動かすお芝居を届けられるんだろうなって

コイズミ …俺は天才だからな

ヨウコ 今のコイズミさんは違います。自分の立場を利用して言葉や行動で人を傷つける最低の人間ですよ

コイズミ あ？

キビツ ちょっと、ヨウコちゃん

ヨウコ 私は！コイズミさんにどんな事を言われても、どんな惨めな思いをさせられても、いい作品を作る上では必要なことなんだ、役作りの一環なんだ、そう信じて着いてきました

コイズミ だから、何が言いてーんだよ

ヨウコ 今の私たちじゃお客さんに何も届けられない。みんな、コイズミさんを信じられなくなってるから、そうなってみんな辞めていきました

コイズミ 辞めたいやつは辞めりゃあいいんだよ

ヨウコ でも私は、まだやっぱりコイズミさんを信じたい

コイズミ …

ヨウコ あの時の感動が胸に残ってるから、私にお芝居をやりたいって思わせてくれたから

コイズミ …

ヨウコ 妹が…観にきてくれるんです。お父さんが観にきてくれるんです！楽しみにしてくれてるんです、いい舞台を届けたいんです！みんなで売りたいんです！

モモヤマ ヨウコちゃん、ごめん！

ヨウコ 違う、モモちゃんは何も悪くない！

モモヤマ だって…

ヨウコ　お願いします…もう一度信じさせてください…お願いします！

ヨウコの言葉と思い心動かされているキビツとモモヤマ

モモヤマ　…お願いします

キビツ　お願いします

コイズミ　…バカじゃねーの。…帰るわ。3人で昨日やったシーンの自主稽古しておけ。
明日も同じ時間な

稽古場から出ていくコイズミ。呆然としているキビツ。

溶暗

#6

幹線道路沿い、ベンチに座って缶ビールを飲んでるコイズミ。視覚障害者用音声信号の音や行き交う人々の足音が聞こえる。少々酔っ払っている様子。

立ち上がり、目を瞑りながら空を見上げると、客席からの大きな喝采を思い出す。目の開け俯くと喝采は消え現実に戻る。

頭を抱えてもう一度座るコイズミ。

上手からボロボロの服を着た浮浪者のような男（シニガミ）が歩いてくる、男がコイズミの隣に座ろうとする。コイズミ少し躊躇いながらも荷物を自分の横に置く、浮浪者の男（シニガミ）、少し戸惑い上手へハケていく

上手から白杖を突きながら学校帰りのヒナタが歩いてくる

ヒナタがベンチの方に向かう。ヒナタの白杖がコイズミの足に当たる

ヒナタ　すみません

手探りでベンチに座ろうとするが手がコイズミのバッグに当たる。コイズミ、渋々とバックを引っ込め缶ビールを一口飲む

ヒナタ　ん？ここ座ってもいいですか？

コイズミ　…勝手にどうぞ

ヒナタ　ありがとうございます

ヒナタ、カバンの中から魔法瓶をあげ口につける。

飲み物を飲み一息つくヒナタ。隣からのアルコールの匂いを感じ

ヒナタ 私も早く大人になりたいな

コイズミ は？

ヒナタ あ、すみません！

コイズミ ・・・なんで大人になんかなりたいんだよ

ヒナタ ・・・働けるから

コイズミ ・・・

ヒナタ 私が働けたらもっとみんなが仲良くなれるから

コイズミ ・・・何言ってるの？

ヒナタ ・・・私、このベンチから聞こえる音が大好きなんです

コイズミ ・・・

ヒナタ これからお友達と遊びに行くんだろうなーって声とか、家族が待ってるお家

へ帰っていくちよつと疲れたお父さん達の足音。お家に帰ってご飯を作るの

かな？パンパンに入った買い物袋が擦れる音：色んな人たちの生活や姿や人

生が、ここに座って耳を澄ませているとなんとなく分かるんです。そして、

今日もみんな一日頑張ったんだな、私も頑張らなくちゃって励まされるん

です

コイズミ ・・・

ヒナタ 今日1日を一生懸命生きたみんなは、どんな顔してるのかなって、想像する

だけでなんか幸せな気分になるんです

コイズミ ・・・

ヒナタ 今日もいい一日だったなー

コイズミ、ベンチから立ちあがろうとする

ヒナタ あ！すみません！私もう行くので、座っててください

コイズミ ・・・

ヒナタ 失礼しました・・・また

ヒナタ、白杖を突きながら下手に向かって歩いていく。コイズミ、缶ビールを飲み干す。ベンチから立ち上がり、下手に向かって歩きだすと先ほどの浮浪者（シニガミ）のような男が下手から現れコイズミの後をつけている。不気味に思いシニガミに気を取られていたコイズミ、障害物（縁石）に躓きそのまま幹線道路へ体が傾く、急ブレーキの音

溶暗

#7

真っ白な世界。中央の椅子に座らされているコイズミ。シニガミがロープ
コイズミを椅子に括り付けている。タカムラがシニガミに気づかれないよ
うにコイズミをコツコツと足蹴りしている。エンマ下手より登場

エンマ
すみません、寝坊しましたー

エンマ、タカムラが足蹴りしてるのに気づき焦って止めに行く

エンマ
あー、ちょっと！タカムラさん、タカムラ！

タカムラ
おはようございます。遅いですよ！

エンマ
いや、ちょっと！今何してたの？

タカムラ
え？何のことです？

シニガミ
おはようございます。今回もよろしくお願いします

エンマ
シニガミさん、相変わらず言葉に心がありませんね

シニガミ
は？

エンマ
いやいや、どうぞ今回もよろしく

シニガミ
準備は整ってます

エンマ
よし、じゃあ始めるか

タカムラ分厚い資料を眺めている、エンマ、コイズミの後ろに周り手を大きく
くパンッと叩く。手を叩くと眠りについてたコイズミがビクツと目を覚ま
す

エンマ
おはよう！

コイズミ
ん、んー…ん？どこだここ？

エンマ
はい、どうもー

コイズミ
は？

コイズミ、立ち上がるろうとするが紐で括り付けられているため身動きか
取れない

コイズミ
ん？あ、おい！なんだお前ら

タカムラ
とりあえず落ち着いてください

コイズミ ふざけんじゃねーぞ、なんだよここ？誰だお前ら

コイズミ、シニガミに気が付く

コイズミ お前、さっきの！

シニガミ 先ほどはご親切にどうも

コイズミ お前、おい！こら、この紐解けー

エンマ だから落ち着けて。まずは、えー、なんだ、この度はご愁傷様でした

コイズミ は？なに？

エンマ ん？さっきの出来事覚えていない？

コイズミ なんのことだよ

目配せをするエンマとタカムラ、タカムラ一度咳払いをし

タカムラ コイズミコウイチ、31歳

エンマ キョンキョン

タカムラ コンビニまで缶ビールを買いに行こうとした際、お酒に相当酔っていたせいもあり縁石につまずき、歩道からよろけて沿線道路へ踏み出してしまふ、その際走っていたトラックに跳ねられる寸前に天界にて確保

コイズミ あ、そうだ。お前、俺の後つけてきただろ！

シニガミ いいや

コイズミ ふざけんや！あ、ちょっと待て。跳ねられる寸前に確保ってなんだよ

タカムラ あなたはまもなく亡くなる運命にあるということですよ

コイズミ は？死ぬ運命って？バカか！てめーらふざけたこと言ってるマジで殺すぞ

エンマ まあ、もう決まりでいいよね

タカムラ はい

コイズミを立ち上がろうとするが強引に椅子に座らせるエンマとタカムラ

コイズミ いてっ

タカムラ コイズミコウイチ。あなたは幸運なことに、この度天界の裁きを受けられることとなった

コイズミ あ？

タカムラ ありがたく思った方がいい、天命を全うした際、ほとんどの人間は裁きを受ける事もできず、この天界にたどり着くこともなく肉体も魂も散り散りに朽ち果ててしまうんだから、…たまたまお前に目をつけたシニガミさんに感謝するんだな

コイズミ　だから！さつきから何訳わかんねーことを
エンマ　タカムラこいつの猶予期間は？
タカムラ　一週間です

タカムラ、持っていた資料をエンマに渡す

エンマ　えー、これより一週間、多くの人を罵り蔑み、傷つけてきたその汚い口から
言葉をすること。並びに下界の者に危害加えることを禁ずる
コイズミ　は？

エンマ　これよりシニガミさんがお前の監視に入り審判をする
タカムラ　言葉というものを発した瞬間、並びに人に危害を加えた瞬間、シニガミさんが警告のカードを出す。

シニガミ、イエローカードとレッドカードをコイズミに見せる

コイズミ　いや、ちょっと待て、お前らマジで：
タカムラ　累積で2枚になった場合あなたの魂はシニガミさんが刈り取ります。人生の退場処分です

コイズミ　マジでふざけんじゃねーぞ
タカムラ　いいですよ、信じなくても。速攻退場になるだけですから

コイズミ　テメエ：

シニガミがゆっくりコイズミに向かって歩き出し頭に手を置く

シニガミ　さつきはどうも。僕へのたった一つの行動によりあなたにもう一つの特典がついた。

コイズミ　は？

エンマ　お前が忌み嫌っていた最もなりたくない姿に変えてやろう！

辺り一体が薄暗くなり、風が轟轟が吹き乱れる
梯子にかかっていた白い布がコイズミの周りを舞っている。シニガミ、着ている汚らしいゴミのような羽織と帽子をコイズミに着用させる。

エンマ　一週間耐え切ったならお前の魂は現世に蘇る、運がいいのか悪いのか。まあ、とくと味わってこい。

辺りはゴウゴウと風が吹いている。白い布がコイズミを覆い、スポットによりシルエットのみが映し出され悲鳴にも似た雄叫びを上げる

暗転

#8

田中家、薄暗いリビング。ヨウコが帰宅し部屋の明かりをつけるとアツシがテーブルの椅子に座っている。

ヨウコ あ、帰ってたんだ

アツシ おう、おかえり。あれ？今日稽古じゃないの？

仏壇に手を合わせるヨウコ

ヨウコ いや…うん、早めに終わったから

頭痛がひどいのかこめかみのあたりを手で抑えるアツシ

アツシ そうか！…あいたたた

ヨウコ ん？大丈夫？

アツシ おう、大丈夫大丈夫！

ヨウコ …あれ？お父さんこそ今日仕事は？

アツシ ああ、お店が暇だったから早めに上がらせてもらって

ヨウコ …そうなんだ

アツシ …どう？稽古は順調か？

ヨウコ …うーん

アツシ 次の舞台、出番は多いの？

ヨウコ …まあまあかな。出番は多いよ、出演者少ないし

アツシ 楽しみにしてるぞー

ヨウコ …

アツシ …楽しんでやれてんのか？

ヨウコ え？なんで？

アツシ 何年一緒にいると思ってまんねん、親を甘くみたらあきまへんで

ヨウコ …

アツシ なんかあったか？

ヨウコ …いや

アツシ

：

ヨウコ ……友達もナツも、みんな普通に企業で働いて、自立してるんだよねで？それがどうした？

アツシ

ヨウコ

…私、迷惑かけてるよね？お父さんに、ナツにも、ヒナタにも…

アツシ

こんなことしていいのかな…

アツシ

こんなことして？

ヨウコ

お芝居して、バイトして…

アツシ、ヨウコの言葉に笑いながら

アツシ

かかってるぞー

ヨウコ

え？

アツシ

かかってる、かかってる、迷惑かかってるぞー。

ヨウコ

：

アツシ

でも、お前の判断は正しいから大丈夫

ヨウコ

：

アツシ

お前もナツもヒナタもみんなが後悔のないように生きなきゃ、母ちゃんだって安心して成仏できねーだら

ヨウコ

…もうとっくにしてるよ

アツシ

迷惑かけていいんだぞ！その迷惑をかける相手として俺たち家族を選んだんだったらそれはナイスな判断だ！

ヨウコ

：

アツシ

あ、その代わり他の人に迷惑かけちゃダメだぞー頼れる人にだけとことん頼れ。どちらにしろ人は一人では生きていけないんだから

ヨウコ

：

アツシ

自分がやりたいと思った道を、真っ直ぐ進め

ヨウコ

：

アツシ

お前たちはさ、俺たちの宝なんだから

アツシの言葉に、ヨウコの溜まっていた感情が溢れる

ヨウコ

お父さん、お父さん！お父さんー！！

アツシの胸の中で涙を流すヨウコ。ヨウコを抱きしめるアツシ

暗転

大きな雨音が聞こえる薄明かりの中、コイズミが舞台中央で自分の掌を見つめている。

しばらくすると上手にある梯子（自分の家の扉）をドンドンドンと叩くコイズミ。もちろん鍵を持っていないので入ることができない。

舞台上をぐるりと回って舞台奥にある梯子（扉）を叩くも相手にされず突き飛ばされてしまう。

再びボックスを回って下手の梯子（飲食店？）の扉を叩き入ろうとするも突き飛ばされまた倒れ込む。

啞然とし舞台中央のボックス前に戻り正面に溜まっている水溜りを覗き込み姿勢が変わってしまったことを受け入れる。

コイズミの横に不気味に立つてるシニガミ。

コイズミ、何かを思い出したかのように上手へハケる

溶暗

劇団××の稽古場。ヨウコが演出席の横に立ってキビツとモモヤマの芝居を見ている

キビツ 「なぜ、なぜだ？見えていないのか？すぐそばにいるのに！」

モモヤマ 「どこ？どこにいるの？今も私のそばにいてくれるの？」

キビツ 「この俺を、受け入れてくれる人はもういないのか？」

モモヤマ 「恨みます、神様、貴方を。憎みます、私たちの運命を」

キビツ 「もう届かないこの思いは閉ざされた愛に向かって叫び続けるしかないのか！」

ヨウコ ごめん、キビちゃん。今の台詞なんだけど、わりとこの後の展開で大事になる台詞だからお客さんの記憶に残るようにもうちょっとゆっくり言うってみてもいいかも

キビツ オッケー、了解

ヨウコ モモちゃんはいいい感じじゃん！もうセリフも完璧だね

モモヤマ まだまだ不安なところはあるけどね

ヨウコ そんなこと言ったら私もだよ

キビツ 次どこのシーンやろうか？ってかヨウコちゃんのシーンもそろそろ当たった

ほうがいいよね？

ヨウコ ありがとう、お願い！あ、その前にちょっとだけ休憩しようか

キビツ もち！

ヨウコ 15分後に再開でいい？

キビツ あざす！

モモヤマ うん！あ、コイズミさんから連絡きてる？

携帯をチェックするキビツとヨウコ

ヨウコ いや、私には来てない

モモヤマ こんな時間まで寝てるってことはないだろうし、流石にちょっと心配にはな

っちゃうよね

キビツ 俺にも来てないわ

モモヤマ んー

ヨウコ ちょっとコンビニ行ってくるね、買ってくるものある？

モモヤマ 大丈夫！

キビツ 大丈夫でーす

ヨウコ りょうかーい

ヨウコ、稽古場を出る。上手奥にあるお手洗いに向かうモモヤマ、台本の確認をしたり携帯をいじったりしているキビツ。下手よりくたびれた様子のコイズミが入ってくるその後ろにはシニガミが憑いている。コイズミゆっくり演出席の方へ向かう。

キビツ うわー

キビツ、稽古場に置いてある箒を手に取りへっぴり腰になりながら

キビツ なんなんですかーあなたは、ちょっとーダメですよ

コイズミ、必死にキビツに向かっていく「俺だ！俺だ！」とアピールをする
コイズミ

シニガミ 分かるわけですねー、何もかもが違うんだから

コイズミ、シニガミの方に少し目を向けるが再びキビツに向かってアピール

をする、コイズミ、キビツに向かっていき肩を揺する

キビツ なんだよ！触るなよ！

コイズミをドンッと押し返すキビツ

キビツ 汚ねえなー！

コイズミ、咄嗟に声が出てしまう

コイズミ いてっ、なんだと、おい！テメエ！

シニガミ、ピピーと笛を吹きイエローカードを出す。

コイズミ おい！ちょっと待て！今のは！

ピピーと笛を吹きイエローカードを出している

キビツ え？ん？

シニガミ あーあーあー、これでもうあとが無くなっちゃいましたね、こんなことで勿体無い

コイズミ、怒りに震えながらも一度キビツに向かって行く。お手洗いから戻ってきたモモヤマ、キビツが何者かに襲われてると思い驚く

モモヤマ きゃー

キビツ お、おい、これ以上近付いたら、ほ、本当に殴るぞ！あ、も、モモちゃん警に通報して！モモちゃん！

モモヤマ、稽古場に置いてある箒を持ちコイズミと対峙しブンブンとコイズミに向かって箒を振り回す

モモヤマ やめて！出てっ！出てっ！出てっ！出てっ！出てっ！

コイズミ、後退り、悲しさと悔しさの入り混じった表情で稽古場を出る。
モモヤマ、息を切らしながらペタリとしゃがみ込む。

キビツ なんだったんだ、あいつ…あ、モモちゃん大丈夫？
モモヤマ …うん

ヨウコ、コンビニから戻ってくる

キビツ うわ！

ヨウコ え？ん？何？どうしたの？

キビツ あ、いや…なんか変なやつに襲われて、いきなり入ってきて
ヨウコ え？

溶暗

1 1

再び雨音が聞こえる。

8 頭と同じ舞台セット位置。

舞台中央奥の梯子をドンドンドンと叩くコイズミ、また中央の椅子を回り下
手の梯子を叩く、また突き飛ばされる。

やはりどこに行っても相手にされることはない。椅子をぐるりと一周し中央
のベンチに座り込む。

雨が止み車の交差する音が聞こえる。幹線道路付近ベンチ。途方に暮れた様
子のコイズミ。

シニガミ いま、どんな気分ですか？
コイズミ …

シニガミ あ、いいですよ。僕には言葉を発しても。僕は下界のものではないですか
ら。あ、ただ、僕に向けた言葉のフリをして下界のものに向けた言葉と僕が判
断したら速攻、退場ですけどね

コイズミ …

シニガミ 僕は嘘をつきません

コイズミ …

シニガミ どんな気分？

コイズミ …最低な気分だ

シニガミ そうですか

人々の行き交う音。下手より登校中のヒナタが白杖を付いて歩いてくる。
ヒナタ、ベンチをカンカンカンと白杖で叩き手探りでベンチを確認し座る。
コイズミ、ヒナタに気付き一瞬接触を試みようとするが、黙考し、接触を諦める。

ヒナタ、魔法瓶をあけ、一口飲み。行き交う人々の足音を聞いている。
コイズミ、ゆっくりベンチから立ち上がり歩き出す。

ヒナタ あ、また会いましたね

コイズミ …？

ヒナタ 今日は、お酒飲んでないんですか？

コイズミ …

ヒナタ 今日はいい天気、いい一日になりそうですね

コイズミ …

コイズミ、ゆっくりヒナタから離れようと歩き出す

ヒナタ あの、何か…嫌なことでもあったんですか？

コイズミ …

ヒナタ なんだか、すごく悲しい足音がするから

コイズミ …

ヒナタ、ベンチから立ち上がり

ヒナタ 私でよかったら話聞きますよ、お話ししませんか？

コイズミ …

ヒナタ 迷惑…ですか？

コイズミ …

ヒナタ ごめんなさい

コイズミ …

ヒナタ この道、通学路だから毎日通るんで、何か悩み事とかがあったら言ってくださいね。いつでもお話聞きますから

コイズミ …

ヒナタ、ベンチから立ち上がり

ヒナタ では、また。

コイズミ …

ヒナタ

いつてきます

上手に向かつて歩き出すヒナタ。それを見送るコイズミ、
ゆっくりと時間が流れている。信号機の音、車の行き交う音、人々の話し声、
蝉の鳴き声、明かりがゆっくりと夕焼けに変わる。

学校終わりのヒナタ、上手から白杖を突いて歩いてくる、再びベンチを確認
し座る。しばしの間。ヒナタ、立ち上がりコイズミの方に笑顔で軽く会釈を
し下手に向かつて歩き出す。コイズミ、ベンチにヒナタの魔法瓶が置いてあ
ることに気づきヒナタを追う。ヒナタ、少し歩いたところで縁石に躓き車道
の方に体が傾く（#5の終わりと同じ）、コイズミ、慌ててヒナタの方へ向か
い体を支える。その反動で白杖が下手袖（車道）に飛んでいきバキッと車に
潰された音。驚いた様子のシニガミ

ヒナタ

あ…

シニガミ

ほう…

コイズミ

…

ヒナタ

…ありがとうございます

コイズミ、ヒナタを支えながら白杖が壊れてしまったことを気にかけている
が、周りからの不審な視線を感じ思わずヒナタから離れる。

ヒナタ

わっ

棒立ちになるヒナタ。コイズミヒナタニ魔法瓶を渡す

ヒナタ

ありがとうございます

コイズミ

…

ヒナタ

…どうしよう…

ヒナタ、携帯を出し電話をかけようと試みるが少し考えた末、
電話のボタンを押す「5時45分」とvoice over が読み上げる
黙考し携帯をカバンにしまう。

ゆっくりと探り探りの感覚でベンチに戻ろうとするヒナタ。

コイズミ、少し躊躇。ヒナタの向かつて歩き出す

シニガミ

何するつもりです？

コイズミ
：

ゆつくりとヒナタの手を握るコイズミ。少し驚いた様子のヒナタ

ヒナタ
どうしたんですか？

コイズミ
：

コイズミしばらく考えた後、人差し指を立て、ヒナタの掌に手書き文字を書いている

シニガミ
危害を加えたら次は速攻：

ヒナタ
お？

コイズミ、ヒナタの手を自らの頭に乗せて頷く。ヒナタの掌を戻し、再び手書き文字を書く。

ヒナタ
く？る？

もう一度ヒナタの手を頭に乗せて頷くコイズミ

ヒナタ
おくる？…お家まで…送ってくれるってこと？

コイズミ、少しの躊躇いながらももう一度ヒナタの手を頭に乗せて頷く。ヒナタ、少し考えたのち

ヒナタ
：よろしくお願いします

こんな自分でも受け入れてくれる人のために何か助けになってあげたいという気持ち、ふれあい、思いもなかった自分の行動に驚きとほんの少しの喜びを感じるコイズミ

ヒナタ
まっすぐです

ヒナタ、コイズミの手を握りながら家までの道を案内する、途中目の前に障害物（ボックス）などがあるとコイズミがそれを避けてヒナタを導く、ヒナタ「ありがとうございます」とコイズミに声をかける。

ヒナタ
：右です

工事現場を避けたり、横断歩道を渡ったり

ヒナタ
まっすぐです！

お散歩中のワンちゃんと触れ合ったり、道中様々なことがある。

ヒナタ
なんだかさ

コイズミ
：

ヒナタ
私の目になってくれてるみたいですね

コイズミ
：

ヒナタ
風が気持ちいいな：

コイズミ
：

ヒナタ
久しぶりに、歩くのが楽しい！

嬉しそうなヒナタ「まっすぐです」「右です」「左です」などと声をかけ家までの道をコイズミに伝える、何も障害物がないのに避ける動作をするコイズミとそれをぴよんと飛び跳ね避ける動きをするシニガミ

ヒナタ
なにかありました？

コイズミ、ヒナタの掌に「い、ぬ」との手書き文字

ヒナタ
いぬ？

コイズミ、ヒナタの掌に「の、う、ん、ち」との手書き文字

ヒナタ
犬のうんち？

コイズミ、ヒナタの手を頭に置き頷く。大笑いするヒナタ、それを見て少し微笑むコイズミ。ヒナタ喜びながら「まっすぐです」と掛け声、再び歩き出す二人。ゆっくり明かりが落ちていく

暗転

田中家のリビング。ヒナタとコイズミダイニングテーブルの椅子に隣り合
せに座っている。ソファーに座っているナツ・
アツシは仏壇に手を合わせている。

アツシ 母さんが亡くなってもうすぐ15年…色々あったな、俺は確かに頼りになる
父親じゃなかったかもしれない

ヒナタ そんなことない、お父さんはずっとかっこいいお父さんだよ
アツシ ありがとう。でもそうじゃないんだ、お前たちが俺をカッコいい父親にして
くれたんだ。お前ももう大人だ。今だから言うけど、ナツが生まれてからヒ
ナタが生まれるまで結構時間がかかってさ、母さんがヒナタを授かった時、
父さんもう嬉しくて嬉しくてな、父さんはもちろんだけど、あの気の強い母
さんまで泣いてた。今思えばなんで坊主にする必要があったのかわからない
だけどさ…本当、立派に育ってくれた。大切な娘なんだ…
う、うん

アツシ で、あなたは誰なんですか！

ヒナタ だから友達だって

アツシ 大切な娘に変なことしてないでしょうね？

ナツ …

アツシ おかしいだろ！

ナツ おとうさん

アツシ なんで男を勝手に家に上げてるんだ、しかも二人きりだったんだろ

ナツ 本当にテーブルでお茶を飲んでもらったよ

アツシ 本当か？

ヒナタ 白杖を壊しちゃって帰れなくなったからお家まで送ってもらったの、それで
お礼にお茶でも出そうと思って

アツシ か、か、彼氏なんですか？まずはあなたの年齢から教えてください

コイズミ …

アツシ なんでずっと黙ってるんですか？この家に黙秘権なんてないですよ

コイズミ …

アツシ ヒナタはまだ高校生ですよ、子供なんですよ

ヒナタ いや、さっきもう大人だって

アツシ ちよっと黙っててくれ

ナツ お父さん、ちよっとヒナタの話聞いてあげよう

アツシ ナツは知ってたのか？

ナツ 何を？

アツシ 彼がいることを？

ナツ …ねえ、確かになんでさっきからずっと黙ってるんですか？何か言わないと

永遠にこれが続きますよ

ヒナタ あ、ちょっと待ってね（コイズミに）なんて説明すればいい？

アツシ コソコソ話をするな！

コイズミ、ヒナタの手のひらに文字を書こうとする

アツシ 娘に触れるな！

ナツ ちょっと、お父さん落ち着いて！

アツシを制するナツ

コイズミ …

ヒナタ あ、この前、家が全焼したみたいで、その時に喉を火傷して、しばらくしゃべれないんだって、すみませんでした

アツシ え…そうなんですか？

コイズミ、ヒナタの方を向く

ヒナタ、コイズミの腰にぽんぽんと手を当てる

アツシの方を向き頷くコイズミ

アツシ こう言っちゃあ失礼なんですけど、あの、その火事のせいでそのような身なりというか格好というか

ヒナタ え？

アツシ あ、いや

ナツ あの、今は家はどうなってるんですか？

コイズミ …

ヒナタの手に指文字をする

ヒナタ …ないって

ナツ え？

アツシ 仕事は？

ヒナタに指文字をしようとするがなんて伝えていいか分からないコイズミ

ヒナタ　…うーん

少し困った様子のアツシ

アツシ　そうか…本当に彼氏じゃないんだな

ヒナタ　うん

アツシ　本当にただの友達なんだな

ヒナタ　うん

アツシ　じゃあ、家が見つかるまで家にいなさい

ヒナタ　？

ナツ　は？

アツシ　え？

ナツ　ちよつとお父さん何言ってるの？

アツシ　お前、家がなくなってるこんな状態で喋られない困ってる人を放って置けないだろ

ナツ　いやでも！

コイズミの方をチラッと見るナツ。少し気まずそうなコイズミ

アツシ　ただ、部屋は余ってないですから寝るのはここでもいいですか？あと、娘に変な真似はするなよ。その時はこうだからな、こう！（チョークスリーパー的ジェスチャー）、家が見つかるまでですからね、早くみつかるんですよ、それでいいですか？

戸惑うコイズミ

ヒナタ　うん、お父さん。ありがとう

ナツ　ちよつと勝手に決めないでよ！私嫌：

アツシ　俺たちも散々色んな人に助けられてここまで生きてこれたからな、困った時はお互い様だ

アツシの言葉を受けるコイズミ

アツシ

よし飯でも食うか。お前らまだ風呂入ってないだろ？飯の準備しておくから先に入ってきたな

ナツ …ヒナタ先入っておいで
ヒナタ うん

ヒナタ浴室へ向かおうとする。コイズミ、ヒナタを支えて一緒に浴室へ行くとする

アツシ …ん？ちょ待ておーい！どこに着いて行こうとしてるんだ
コイズミ …？

アツシ 大丈夫だから、家の中は

コイズミ …

ヒナタ ありがとう、家の中は全部把握してるから大丈夫だよ

申し訳なさそうなコイズミ。ふふっと笑うヒナタ
浴室へ向かうヒナタ。その場に残るコイズミ
コイズミをまだ受け入れられないのか、ため息をつき少し不機嫌そうなナツ

ナツ お父さん、優しすぎるよ
アツシ は？優しかったらダメなのか？

ナツ 別にダメじゃないけど

アツシ 俺から見たらお前たちの方が優しいって思うけどな、ナツもヨウコもヒナタも

ナツ 私は…優しくなんかないよ

アツシ ヨウコのことか？

ナツ え？

アツシ ごめんな、結局俺が頼りないからそうなったんだよな
ナツ 違う、ごめん。いやそういうことを言いたいんじゃない

アツシ …俺にだって人に優しくなれない時はあったぞ

ナツ …え？

アツシ でも、お前たちが俺を変えてくれたんだ

コイズミ …

ナツ …？

アツシ ヒナタの事があって、その後すぐ母さんが死んじゃって、あの時の俺は誰に何を言われても、俺の何がわかるんだ？俺の苦しみを分かれてたまるか。なんで俺だけこんな思いをしなきゃいけないんだって…心に余裕なんてなかった

ナツ …

アツシ 人の言葉全てが刃物のように感じた、自分を馬鹿にしているように感じたんだ。

ナツ
： だから俺もその刃物から自分を守るために無意識に沢山の人を傷つけてた

アツシ
： 深い闇の中にいたんだろうな…でもな、ある日ヒナタが俺にこんなことを言
ったんだよ

ナツ
：

アツシ
「私のせいでお父さんはそんなに辛そうなの？私は全然平気だよ」って「目
の见えない世界だっていいもんなんだよ」って

【シンクロ】

ナツ
：

アツシ
そしたら横にいたお前ら二人がさ俺にこう言ったんだよ「(ヨウコ)ヒナタを
馬鹿にしないで！(ナツ)お父さんが可哀想って思ったらヒナタ本当に可哀想
になっちゃうじゃん」

って

【シンクロ】

ナツ
：

アツシ
救われたな、お前らに

コイズミ
：

アツシ
こんな小さな体のお前らは自分を受け入れて、まっすぐに前を向いて、一生
懸命に生きてるってのに、俺は何をやってるんだろうって。あの時のヒナタ
とナツとヨウコのあの言葉で俺は変わる事ができた

ナツ
：

アツシ
世の中にはさ、目に見えてないだけで色んな苦しみを抱えて生きてる人間が
沢山いる

コイズミ
：

アツシ
だからさ俺は常に人に優しくありたいなって思うんだ、常に人の裏側の気持
ちを汲みとってあげる努力をしたいってな

ナツ
：

アツシ
ヨウコはナツに迷惑かけて申し訳ないって思ってるぞ、ナツの家族思いの優
しさもちゃんとヨウコに伝わってる。お前たちの優しいところ本当母さんそ
っくりだ、みんな一生懸命ががんばってる。ナツ、ヒナタと3人で一緒に舞台
観に行こうな！

心が揺れるナツ。玄関の扉が開く音。ヨウコが帰ってくる

仏壇に向かおうとするがコイズミの存在にびっくりするヨウコ。ヨウコの登
場に戸惑うコイズミ

ナツ
お姉ちゃん！！

ヨウコ

：

ナツ

私、お姉ちゃんを言い訳にしてた、自分がちゃんとしなきゃいけないのは、お姉ちゃんが好き勝手やってるからだって

ヨウコ

：

ナツ

でも違うの！…お姉ちゃんが初めて今の劇団の舞台を観に行って帰ってきた時、目を輝かせながらお姉ちゃん私にこう言ったの、こんな舞台を作りたい。こんな作品にでたい。こんな女優になりたい！絶対舞台で人の心を動かしたい！劇団入ってすごいんだよ！って

コイズミ

：

ナツ

その時私思ったんだ、あ、私にこんなに熱量持ってやりたいって思えることないや、お姉ちゃんみたいにはなれないんだって。私は、ずっと私がやりたいことできないのはお姉ちゃんのせいにしてた、本当は全部自分のせいなのに。やりたいことがないのをお姉ちゃんのせいにしてた…。

ヨウコ

：

ナツ

ごめん、嫌なことばかり言って、ごめん！お姉ちゃん頑張ってるのに本当にごめん！

ヨウコ

：ナツ

ナツ

：大好きなのに、お芝居頑張ってるのに、お姉さんの事大好きなのに、本当にごめん

ヨウコ

こちらこそ、ナツに苦しい思いさせちゃってごめん

コイズミ

：

ナツ

ううん。舞台…楽しみにしてるから！

ヨウコ

うん！

コイズミ

：

目を合わせて笑い合うヨウコとナツ。何かを感じるコイズミ
久しぶりにみるナツの笑顔に喜ぶアツシ

アツシ

お！やっと3人揃ったな！久々に乾杯でもするか

ヨウコ

：

ナツ

うん！

冷蔵庫にお酒を取りに行くアツシ

アツシ

ほらこれナツが作った〇ミの缶チューハイだぞ

ナツ

だから私が作ったんじゃないって

アツシ

同じ同じ、二人と乾杯できるなんて夢が叶ったわ、じゃあ、ヒナタには悪い

けどチームアダルトで先に乾杯しますか？お前らと乾杯できるなんて幸せもんだなー俺は。あ、あとはヒナタが二十歳になるのを待つだけかと。

3人で乾杯しようとするがコイズミに気付き

アツシ お、あんたも飲みますか？

コイズミ、少し戸惑うがコクンと頷く

アツシ ちょっと待っててねー

もう一本缶チューハイを取りに行こうとするアツシ

アツシ うううう

アツシ、こめかみを抑えて急に苦しみ出し、そのままばかりと倒れ込む

ヨウコ お父さん？

ナツ お父さん？お父さん？

コイズミ、シニガミの方を向き慌てる、何もできない自分がもどかしい様子

ヨウコ お父さん！お父さん！！！！

救急車のサイレンの音が鳴り響く

暗転

#13

翌日、夕方。幹線道路沿いのベンチに座っているヒナタとコイズミ。ヒナタは両手で顔を包みながら俯いている。コイズミ、正面を向いて立っている

ヒナタ お父さん…くも膜下出血かもしれないって、お姉ちゃんが…

コイズミ …

ヒナタ 意識が戻るかわからないって

コイズミ …

ヒナタ …過労が原因かもって…お母さんの時と一緒に…お姉ちゃんが…

コイズミ …

ヒナタ、涙を堪えながら

ヒナタ

毎日毎日、朝から晩まであんなに働いて…絶対疲れてるはずなのに、私たちの前ではいつも大丈夫、大丈夫…って…！お母さんのこと…嘘つきって言ってたのに…お父さんも嘘つきじゃん…

コイズミ …

ヒナタ

…お父さん…死んじゃうのかな？私のせいなのかな？私が…私が迷惑かけてるから、だからお父さんあんなに働いてたのかな

コイズミ …

ヒナタ

ねえ…いやだ、いやだよ。お父さんすぐに元気になりますよね？絶対大丈夫ですよ？

コイズミ …

ヒナタ

ねえ？…お父さん大丈夫ですよ？ねえ、大丈夫だよ？大丈夫って言うよ！大丈夫って言うてよ！

ヒナタを抱き寄せ励ましの言葉ひとつかけてあげられない自分にもどかしさを感じているコイズミ。ヒナタはコイズミの胸の中で泣いている。複雑な表情をしているシニガミ。

ヒナタの携帯になる。Voice overで「ヨウコからです」と音声表示。電話に出るヒナタ

ヒナタ

お姉ちゃん、うん、…うん…、うん、ちょっと待って！ねえ！ちよつと！

電話が切れる

ヒナタ

お父さんの容体が急変したって…お姉ちゃんは病院に向かってるって…どうしよう。ねえ、どうすればいい！？どうすればいい？

病院の場所を思い出しヒナタの手を引っ張り上手側に歩く

コイズミ、ヒナタの手を頭に乗せて頷く。コイズミ。再びヒナタの手を引っ張り上手へ歩き出す。左に曲がり、ベンチを一周するように歩き下手の梯子の前で立ち止まる。バス停の前。バスが止まり扉が開き微かにエンジン音が聞こえる。コイズミ一歩前に歩きだしヒナタも続いて一歩前に歩き出す

ヒナタ
すみません、このバスは第一病院前まで行きますか？…ありがとうございます

もう一步前に歩き出す二人

ヒナタ
え？なんでこの人は乗ったらダメなんですか？

ヒナタ
歩いて行ける距離じゃないんです。この人がいないと病院までたどり着けないんです。なんで？なんでダメなんですか！？

バスの扉が閉まる音。バスが走り出す。戸惑っている様子のヒナタ。絶望した様子のコイズミ

ヒナタ
お父さん…お父さんが…！なんで、なんで！

ヒナタ、コイズミにしがみつかなり取り乱している様子、コイズミ上手の梯子の前で立ち止まりもう一度バスが来るのを待つ、バスが停まり、扉の開く音と微かなエンジン音。コイズミとヒナタ一步前に歩き出す

ヒナタ
すみません、第一病院前に停まりますか？…ありがとうございます！

再び一步前に歩き出すコイズミとヒナタ

ヒナタ
なんですか？なんで？この人が連れてってくれるんです！この人は今、私の目になってくれるんです！…この人は私のお友達なんです！お願いします！…！なんで、なんで…お父さんが、お父さんが…！

泣き叫ぶヒナタを見ても立ってもいられなくなったコイズミ

コイズミ
おい！シニガミ！頼む！30分、いや10分だけでいいから元の姿にもどしてくれ！

ヒナタ
？

コイズミ
頼む！頼むよ！お願いだよ！

シニガミ
…それはできない

コイズミ
頼むよ！！！！

必死にシニガミにすがるコイズミ。過去の自分の過ちを悔いる。

こうなってしまった自分を悔いる。様々なことが頭によぎる。うううつ、う

ううつと頭を叩いている、決死の覚悟を決め、バスに向かうコイズミ

シニガミ やめろ！

コイズミ 離せー！

コイズミに振り飛ばされるシニガミ

シニガミ 次言葉を発したらお前は・・・

コイズミ だまれ！

コイズミ、バスに乗りこみ

コイズミ (運転手に) 第一病院までお願いします！ (乗客に向かって) 誰か、そこで降りる人いたらこの子を病院まで連れてってあげてください！お願いします！
お願いします！

驚いた表情のヒナタ

コイズミ、ヒナタをバスに乗せる

コイズミ ヒナタ！降りる人が誰もいなかったらバス停着いたら大声で病院まで連れて

ってほしいって叫べ、大声で叫べ！きつと誰かが助けてくれる！

ヒナタ でも！でも！

コイズミ ヒナタ！大丈夫！絶対に大丈夫だから！お父さんも、絶対に大丈夫！ヨウコと、お姉ちゃんにも！絶対大丈夫だからって！これから、どんな事があっても、お姉ちゃんと喧嘩しても！誰かに悪口を言われても！好きな人に嫌われても！生きるのがしんどくなっても！これから先、どんなに辛いことがあっても絶対に大丈夫！大丈夫だから！だから、だから頑張れ！頑張れ！ヒナタ！頑張れ！！頑張れ！！！！

ヒナタ …

扉が閉まりバスが発車する

シニガミ、ピーーとホイッスルを吹きレッドカードを出す

暗転

舞台中央に立ってるコイズミ。天界の証言台

コイズミにスポットが当たってる

コイズミ

言葉を発したら自分がどうなるのか…そんな事はわかっていても、あの子を全力で励ましてあげたかった。こんな俺に優しく声をかけてくれたあの子に。…俺が今まで使っていた言葉ってなんだったんだろうな。本当に…綺麗なモノってなんなんだろう？…ってずっとわからなかったけど、あの子に、あの家族に出会って、俺はそれに気づけたような気がします…

ゆっくりと明かりが消える、また明かりがつくとヒナタが立っている

ヒナタ

私が病室につく少し前にお父さんは天国へ旅立ちました。51歳でした。

お父さんは幸せな人生だったのかな？私にはわかりませんが、幸せだったって思ってくれてたらいいな。お仕事がお休みの日はお家でゆっくり休みたいはずなのに、いつも私たち達をどこかへ遊びに連れていってくれたお父さん。お前達の人生なんだからお前達の好きに生きろっていうくせに、いつも私たちを気にかけて、いつも私たちの心配してくれていたお父さん。お父さんは最後までずっと私たちを愛してくれました。もしあの時、一台目のバスに乗っていたら、お父さんの最後に立ち会えたのかなって思う時もあったけど、もしも、なんてことを考えるのはやめることにしました。でも、私みたいに、悲しい思いをする人が一人でもいなくなればいいなって願っています。少しでも優しい世界になればいいなって、そう、願っています。

暗転

#14

劇団××の舞台カーテンコール、下手からヨウコ、キビツ、モモヤマが出てくる。客席にはアツシの小さい遺影を持って座ってるヒナタとナツ。

劇団××のメンバーが頭を下げると大きな拍手が客席から湧く。パチパチと大きな拍手をしているヒナタとナツ。劇団××の3人が頭を上げ客席の方に手を向けると客席からコイズミが舞台上に出てくる。コイズミが深々と頭を下げるともう一度大きな拍手が湧く

暗転

#15

天界。

タカムラ分厚い資料をパタンと閉じる。エンマは椅子に座って下界を覗くようなそぶりをたまに見せつつ体をぶらぶらと揺らしている。そこにシニガミがやってくる

タカムラ あ、シニガミさんお疲れ様でした

シニガミ お疲れ様でした。一応報告書まとめおきましたよ

タカムラ ありがとうございます

エンマ 今回の案件でタカムラはノルマ達成かー、まあ、喜ばしいことではあるけど

ちよつと寂しくはなるよねー

タカムラ 長い間一緒にやってきましたからね、でもまだ引き継ぎの業務もあるので、

しばらくはここにいますよ

エンマ あ、今日からだっけお前の後金が来るの

タカムラ そうですね、まもなく到着すると思います

エンマ でもなんか今回の判決、腑に落ちないんだよな、シニガミさんこの報告書で

本当に合ってる？

シニガミ はい

エンマ コイズミは初日に劇団~~ズ~~の稽古場で言葉を発して以降、一度たりとも下界のものには言葉は発していません…と

もう一度報告書を読み直すエンマ

エンマ このバス停で大声を上げたってのは？

タカムラ それは下界の者ではなく、シニガミさんがその日あまりにメンタルが沈んでいたようで、それでコイズミはシニガミさんに大きな声で励ましてくれたようです。ですよ？

シニガミ ええ

エンマ へえー。シニガミでもメンタル沈むことってあるんだ。まあ、俺にとっても案件が成立するのは喜ばしいことだから別にいいんだけどね

タカムラとシニガミ上手もほうでヒソヒソと

シニガミ ちゃんと今度ご飯ご馳走してくださいよ、僕だって虚偽の報告ってバレたら立場が危ういんだから！

タカムラ 大丈夫！大丈夫！こんな日のために15年も真面目に働いてきたんだから

エンマ ん？今なんか悪い話してた？

タカムラ いいえ

エンマ

本当に？

タカムラ もちろん！嘘がつけないう性分ですよ、私！

下手からエンマやタカムラと同じような羽織をきたアツシがやってくる

アツシ 今日からお世話になります。よろしく願います

エンマ おお、きたか

タカムラとアツシ、少し目を合わせて

タカムラ …長い間、お疲れ様。本当にありがとうね

アツシ …うん

タカムラ …ねえ、ちよつとこつち来るのが早すぎるんじゃない？

アツシ お前には言われたくないわ

タカムラ …こんなに老け込んだんじゃって

アツシ 15年も経てばこうなるよ！

タカムラ …で、あんたがいないで、あの子たち大丈夫なの？

アツシ 大丈夫だよ、3人ともまっすぐいい子に育ったから。心配はしてないよ

タカムラ 私に似たんだねー

アツシ いや、俺に似たんだよ

タカムラちよつと笑いながら

タカムラ そうかもね。あ、でも心配してないは嘘！

アツシ いやいや、…それは多少心配にはなるけど

タカムラ …そりゃあねえ

アツシ だろ！いや、つてかすぐ嘘つくのはお前の専売特許だろ

タカムラ はあ？ちよつと人のことをお前って呼ばないでくれない

少し戸惑ってるエンマ

エンマ …何してんの？

タカムラ …もう

アツシとタカムラ、少しばかり見つめ合いお互いに笑う

タカムラ さ、では早速業務説明から始めますねー

アツシ お願いしますー

タカムラ はい、ついてきてください

タカムラ、アツシ連れて上手へ向かう。エンマ、不思議そうに死神の方をむく。ニヤニヤしながら知らんぷりをしているシニガミ、

溶暗

16

幹線道路沿いのベンチ。バッグを自分の横に置きベンチに座ってぼーっと行き交う人々を眺めているコイズミ。誰かを待っている様子。下手からボロボロの服を着た浮浪者が歩いてくる。コイズミ、自分の横にあったバッグを膝の上に置くが浮浪者はコイズミの目の前を通り過ぎそのまま上手にハケていく。その様子を眺めていると上手からヨウコの腕を支えながら歩いてくるヒナタ。その後ろをナツが歩いてくる。コイズミ咄嗟に立ち上がる

コイズミ …

ヨウコ コイズミさん？こんなところで何してるんですか？

コイズミ あ、いや

コイズミ、ナツとヒナタの方に二、三歩歩み寄り会釈する

ヒナタ え？

ナツ あ、あの、姉がいつもお世話になってます

コイズミ …いえ、こちらこそ

ヒナタ あの！この前は…本当にありがとうございました

コイズミ え？

理解できない様子のヨウコとナツが目を合わせる。

ヒナタ 私の自慢のお姉ちゃん達です

ヒナタ、ゆつくりとコイズミの方に歩み寄る。コイズミ、ヒナタに手を差し出しぎゅっと掴んで支える。にっこりと笑うヒナタ

ヒナタ 私のお友達です！

ナツ ？

ヒナタ 一緒にご飯食べに行きませんか？

戸惑うコイズミ、ヨウコ、ナツ。

コイズミついヒナタの手を頭に乗せ頷く動きをする

ヨウコ ん？

コイズミ あ、いや、ご一緒してもいいんでしたら

ヒナタ もちろん！ほら！早く行こう！

少し姿勢を正し笑顔になるコイズミ

ヒナタ、コイズミの腕をギューっと掴み

ヒナタ よし！まっすぐー！

タイトル「すどれーとごー」

完